

# 中国語における“也”について

## —関連性理論の観点から—

崔 春 愛

The scope of the Japanese particle *mo* does not extend beyond the preceding constituent. However, the scope of *ye* in Chinese, which is considered an equivalent element to *mo*, can extend to various elements in a sentence although its syntactic position is fixed between the subject and the predicate. This means that the same sentence can be interpreted in various ways depending on the context. Therefore, the meaning of the sentence with *ye* can be ambiguous and it is confusing to non-native speakers of Chinese. However, native speakers of Chinese can correctly understand what the speaker intends to indicate with *ye*. This paper attempts to demonstrate how the native speakers of Chinese successfully interpret the sentences with *ye* in the framework of the Relevance Theory.

**Key words :** sentence, utterance, context, the Relevance, Theory, *ye*

### 1. はじめに

中国語の“也”の副詞的用法は一般的に凡そ下記の10のカテゴリーに分類されている。  
①類似<sup>1)</sup>, ②因果, ③累加・累減, ④譲歩, ⑤逆接, ⑥仮定, ⑦条件, ⑧強調, ⑨語気の強め, ⑩語気のやわらげ等である。ただ文のレベルでは、具体的にどの用法、どの意味で使われているか、或いはたとえ「類似」の用法一つであっても、文中のどの部分において「類似」し、追加される項はどれなのか特定しにくい。例えば、例文(1)の中国語は下記のように三通りの意味を持つことが可能である。

- (1) 他 也 喜欢 英语 课。  
彼 も 好きだ 英語 授業  
a 彼も英語の授業が好きだ。  
b 彼は英語の授業も好きだ。  
c 彼は英語の授業が好きでもある。

(1)の中国語では三つの解釈を持っているが、それがなぜ日常のコミュニケーションで間違えられることなく、聞き手と話し手によって正確に解釈でき、意思疎通をスムーズに行うことが可能なのか、まず以下の先行研究を参考に考えてみたい。

## 2. 先行研究

中国語の副詞“也”に関する研究はまだ部分的ではあるが、楊凱榮 (2002) 『『も』と“也”―数量強調における相異を中心に―』などによって行われている。これは、日本語の助詞「も」との対照比較を通して“也”の基本義とその用法を研究しているものである。この文献によれば、中国語の“也”の基本義は日本語の「も」と同様に「類似事態の追加」とすることがいえると書かれている。楊凱榮 (2002) は「次郎も良子が好きだ」という例文を取り挙げ、次のように指摘している。この日本語の例文は中国語で言うとな次のような表現になろう。“次郎也喜欢良子”。ところが、実際の意味には、文脈によって日本語の「次郎は良子も好きだ」と「次郎は良子のことが好きでもある」という文にも対応する。楊凱榮 (2002) は、中国語の“也”は副詞であり、述語の前に位置するため、前方スコープ型の“X+也”と後方スコープ型の“也+X”の両方があるという。更に「類似事態の追加」を表す点において“X+也”と“也+X”との間には違いが見られないが、前方スコープ型の“X+也”のみが意外性を表し、後方スコープ型“也+X”にはこのような機能がないと指摘している。楊凱榮 (2002) は、“也”に関して後方スコープ型の“也+X”と前方スコープ型の“X+也”の両方の比較に留まっているが、実際は“也”は文によって、単に“也”の前方・後方だけではなく、いくつかの成分にスコープがかかることが言えるのではないだろうか。例えば、次の中国語の例文(2)はやや特殊な例ではあるが、文のレベルで見た場合、下記の五つの意味が考えられる。

- (2) 日本 明年 也 将 把 服飾品 出口 到 中国。  
 日本 来年 も であろう を 服飾品 輸出する に 中国  
 (a) (b) (副詞) (介詞) (c) (d) (場所への到達) (e)

スコープがかかる場所が違えば、意味も違ってくる。上の a,b,c,d,e,の場所にスコープがかかった場合、その日本語の意味は以下で示したように、それぞれ違う意味に解釈される。

- a 日本も来年、服飾品を中国に輸出するだろう。(フランスも日本も)
- b 日本は来年も服飾品を中国に輸出するだろう。(今年も来年も)
- c 日本は来年、服飾品も中国に輸出するだろう。(電気製品も服飾品も)
- d 日本は来年、服飾品を中国に輸出もするだろう。(輸入も輸出も)
- e 日本は来年、服飾品を中国にも輸出するだろう。(韓国にも中国にも)

例文(2)の a から e までは、ただ“也”の「類似」の用法に限った例であるが、実際“也”には前述のように10通りあまりの用法がある。では、実際の発話の中でこのような曖昧な文が、どのように特定されていくのであろうか。まず考えられるのは、語気で示すことである。つまり、スコープがかかる部分を強調し、強く発音することである。また、場合によっては、語順を変えることによって、つまり「日本」あるいは「来年」を文の一番前に置くことによって強調することも可能である。しかし、実際中国語母語話者同士でこのような会話は少なく、文脈依存で行われることが多い。第3節では、このような発話を分析するための関連の理論について概観する。

### 3. 関連性理論

関連性理論はスペルベル&ウィルソン（1986）によって提唱された理論で、発話がいかに理解されるかということに関する理論である。コミュニケーションをする時、たとえ話し手が完全な文を発したとしても、その意味が聞き手に完璧に復元できない場合や、言語表現自体が不完全であっても、聞き手がそのメッセージを復元できる場合がある。また同じ発話を発した時、それが違う意味で解釈される場合もある。本稿では、同じ発話が状況によって違う意味に解釈される場合に関しての例文を通して、なぜそれが可能であるかを関連性理論に基づいて考察する。

ブラウン&ユール（1983）の指摘によると、一つのフレームにある情報がすべて、特定の発話の解釈に関連があるわけではない。どんな情報が選ばれるかは関連性理論によると、最大の関連性を持つものであるといわれているが、その過程で重要な役割を果たしているのが文脈である。

一方、西山（1985）は表出命題を得るために必要な能力に関して次のように説明している。

ある発話を耳にした聞き手が表出命題を得るためにおこなっている作業は「言語記号の解読」のごとき機械的なものではけっしてない。そこでは、文の言内の意味のみならず、発話の直前に登場した言語的文脈、聞き手の頭のなかに記憶としてある百科全書的知識、常識、さらには、視覚系、嗅覚系、触覚系といった言語知識以外の多様な入力情報が要求され、それらを統合し、推論するきわめて能動的な力が働いているのである。関連性理論では、この能力を「関連性を探し求める認知能力」とみたてる。（西山1985：p.35）

西山の説明にあるように発話の表出命題を特定化するためには、発話がなされたコンテキスト情報が不可欠である。文の曖昧性を除去し、指示表現の対象を同定し、不定な表現を特定化し、省略表現を補う作業は表出命題の同定にとって必要である。更に言内の意味は同一であるが、それぞれの表出命題が異なる場合もあると西山は説明している。つまり、同一の言内の意味でも、コンテキスト次第ではそれぞれ異なる表出命題に導出され、その点で言外の意味が異なる場合もあるわけである。例えば例文（2）“日本明年也将把服饰品出口到中国”という文が会話で発話された場合、状況によってそれぞれ日本語の違う意味に解釈できる。

以上の関連性理論に基づき、“也”を含む発話を分析することによって、それぞれの発話がどのように解釈されていくか、そのメカニズムを解明することを試みる。

### 4. 会話での“也”を含む発話に関する分析

例文（2）で見たように、“也”が用いられている文はとても曖昧である。普段の発話において、コンテキストの助けがあってはじめて、それぞれ具体的な意味に特定できるのである。例えば、下記の例文（3）、（4）、（5）において、“我也喜欢”は三つとも“也”の「類似」を表す用法で用いられているが、追加される項がそれぞれの発話で異なる。つまり、“我也喜欢”の言内の意味は同一であるが、言うまでもなくそれぞれの発話で具体的に追

加される項が異なるため、言外の意味は異なる。

(3) A : 我 觉得 日本 的 气候 挺 好 的, 我 很 喜欢。

私 思う 日本 の 気候 とても いい 語気助詞 私 とても 好き

(日本の気候はとてもいいと思います。とても好きです。)

B : 我 也 喜欢。

私 も 好き

(私も好きです。)

例文(3)でスコープがかかる部分は“我(私)”で、“喜欢日本的气候(日本の気候が好きだ)”という点において話し手Aと話し手Bが「類似」している。“我也喜欢(私も好きだ)”という発話の後ろには“日本的气候(日本の気候)”が省略されていると容易に推論できるであろう。それは、この解釈が一番労力がかからない解釈であるからである。この点について、ブレイクモアは「情報を処理するに際して、人々は代価と報酬のバランスをとるべく努める。」(p. 56) し、「新しい一片の情報を、最小の処理労力で最大の文脈効果を生み出す文脈の中で自動的に処理している」(p. 56) と説明している。実際、省略された表現に対して、聞き手が補い得る前提条件は限りがない。しかし、ここで話し手Bの発話を“我也喜欢日本的气候, 可是更喜欢日本的文化(私も日本の気候が好きだが、日本の文化がもっと好きだ)”というふうには解釈しないであろう。それは、余分なコストを払ってまでそのような解釈に結びつくような頭の働きは聞き手の中には起こらないからである。聞き手は発話が最善の関連性を持つ、つまり、発話が必要である最小の労力で適切な文脈効果を持つという期待の中で、省略表現を復元する作業を行い、話し手の意図する命題を構築するのである。従って、この例文では、日本の気候が好きな話し手Aに、同じ日本の気候が好きな話し手Bが追加されると考えられる。ところが、例文(4)でスコープがかかる部分は例文(3)とは違って、日本の気候である。

(4) A : 来 日本 快 三年 了<sup>2)</sup>, 觉得 日本 怎么样?

来る 日本 そろそろ 三年 思う 日本 いかが

(日本に来てそろそろ三年になりますが、日本はいかがですか。)

B : 我 觉得 挺 好 的。 日本 的 吃的东西 我 也

私 思う とても いい (語気助詞) 日本 の 食べ物 私 も

习惯 了, 日本 的 气候 我 也 喜欢。

慣れる た(変化) 日本 の 気候 わたし も 好き

(とてもいいと思います。日本の食べ物にも慣れたし、日本の気候も好きです。)

例文(4)で“日本的吃的东西我也习惯了(日本の食べ物にも慣れた)”という部分では“喜欢(好きだ)”という表現が使われていないものの、本質的に日本についてのプラスな評価を述べているという点において“日本的气候我也喜欢(日本の気候も好きだ)”という表現と「類似」していることに違いない。つまり、話し手Bの発話で、“日本吃的东西我也习惯

了（日本の食べ物にも慣れた）”という表現に対し、“日本の气候我很喜欢（日本の气候が好きだ）”という項が追加されていると考えてよからう。このように導出を可能にしたのは、話し手Aに日本についての感想を聞かれ、話し手Bがその質問に答えているという点と、その質問の答えとして、日本が気に入った理由を述べているという文脈情報をもとに推論を行った結果によるものである。

（5）A：喜欢 日本 的 气候 吗？

好き 日本 の 气候 か(疑問)

（日本の气候、好きですか。）

B：也 喜欢，也 不 喜欢。看 怎么 说。

も 好き も 否定 好き 見る どのように 言う

（好きでもあるし、嫌いでもあります。どういったらいいでしょう。）

例文(5)でスコープがかかる部分は“喜欢(好き)”という言葉で、“喜欢(好き)”と“不喜欢(嫌い)”は正反対の評価ではあるが、日本の气候に対する感想を述べている点で「類似」する。従って、“喜欢(好き)”という日本の气候に対する感想に、同じ日本の气候に対する感想としての“不喜欢(嫌い)”という項が追加されると解釈できる。以上の例文(3)、(4)、(5)において、話し手Bが発した発話は同一であるが、Bの意図している命題はそれぞれ異なる。聞き手はBの意図している命題を復元する際、ただ言語的意味や関連の文法知識だけではなく、文脈情報や語用論的知識などを動員し、最善の関連性を求め、正確にそれぞれの言外の意味に解釈していくのである。

それでは、“也”の類似・仮定・因果・譲歩関係を表す場合はどうであろうか。例えば、中国語の文“我也去”は一見、「私も行く」という意味に解釈されそうだが、以下の例文(6)、(7)、(8)、(9)でそれぞれ違う意味を持つことが分かる。以下は同級生であるAとBが今度の同窓会に出るかどうかについて話している会話である。

（6）A：这次 同学会 谁 去？

今回 同窓会 誰 行く

（今回の同窓会に誰が行きますか。）

B：你 去，我 也 去。咱们 俩 一起 去 吧<sup>3)</sup>。(類似)

あなた 行く 私 も 行く 私達 二人 一緒に 行く ましょう (勧誘)

（あなたも行けば、私も行きます。一緒に行きましょう。）

例文(6)で、“也”は「類似」の意味で使われている。同窓会に行く話し手Aに、同窓会に行く点で「類似」する話し手Bが追加されている。中国語の理解できる聞き手なら誰もこの例文で“也”が仮定を表す機能を果たしているとは思わないだろう。それは話し手が、“咱们俩一起去吧(一緒に行きましょう)”という発話を続けることによって“你去我也去(あなたも行けば、私も行く)”の持つ曖昧な部分を除去し、発話の一義化<sup>3)</sup>(disambiguation)を行ったからである。聞き手は話し手からこのような手助けを提供され、“我也去(私も行

く)”という発話を解釈する際、話し手の意図する意味への方向付けに沿い、結論を出すよう仕向けられたのである。例文(7)では、“也”が「仮定」の意味で使われた例である。

(7) A : 这次 同学会 你 去 吗?

今回 同窓会 あなた 行く か(疑問)

(今回の同窓会に行きますか。)

B : 你 去, 我 也 去。 你 不 去, 我 也 不 去。(仮定)

あなた 行く 私 も 行く あなた (否定) 行く 私 も 否定 行く

(あなたが行くのなら私も行きます。あなたが行かないなら、私も行きません。)

例文(7)で、話し手Bが同窓会に行くかどうかは話し手Aの行動によって決まる。もし話し手Aが行くならば、話し手Bも行くことになるし、もし話し手Aが行かなければ、話し手Bも行かない。しかし、行くにしても行かないにしてもいずれにせよ、未定の仮定にしか過ぎない。上の例文(6)と同じように発話の曖昧性を除去するため、話し手Bは“你不去, 我也不去 (あなたが行かないなら、私も行かない)”と付け加えている。従って、聞き手は混乱することなく、この発話での“也”は、話し手Aの行動が未定であるという前提のもとに「仮定」の意を表すものとして用いられていると理解し、話し手Bの意図している命題を正しく導出することができる。例文(8)では“也”が「因果」関係の意味で使われた例で、ここでは“你去 (あなたが行く)”が“我也去 (私も行く)”の原因になっている。

(8) A : 这次 同学会 我 要 去。

今回 同窓会 私 (強い意志) 行く

(今回の同窓会に行かなきゃ。)

B : 你 去, 我 也 去。(因果)

あなた 行く 私 も 行く

(あなたが行くのなら、私も行きます。)

中国語の文の“你去, 我也去”の日本語訳は例文(7)と同じく、「あなたが行くのなら私も行く」であるため、“也”が同じ「仮定」の意で使われていると錯覚されることもあるだろう。しかし例文(7)では、話し手Aが同窓会に行くかどうか未定の状況での発話で、“也”はあくまでも「仮定」の意を表している。それに対し、例文(8)では、話し手Aが既に行くという意志を明らかに表明している。話し手Bはそれを前提に“我也去 (私も行く)”と言っているため、“也”が「因果関係」を表すものとして機能することになるだろう。ここでも聞き手はただ言語に関する知識だけではこのような命題にはたどり着かないだろう。話し手の用いた語の意味についての聞き手の知識が復元に役立ってはいるが、それは話し手の意味を復元する過程において手がかりに過ぎない。聞き手は話し手の用いた言語形式を「手がかり」に、文脈知識や語用論的知識を動員して話し手の意味を構築していかなければならない。(9)の例では“也”が「譲歩」関係を表すものとして使われている。

(9) A : 这次 同学会 我 不 能 去 了。

今回 同窓会 私 (否定) できる(可能) 行く 変化(語気助詞)

(今回の同窓会行けなくなりました。)

B : 你 不 去, 我 也 去。(譲歩)

あなた (否定) 行く 私 も 行く

(あなたが行かなくても、私は行きます)。

話し手Bの発話での前の節“你不去(あなたが行かない)”と後の節の“我也去(私は行く)”は、「あなたが行かない」という前提と、その前提に左右されることなく「私は行く」という表現は譲歩関係にある。例文(6)での“也”は追加の働きをしているため、“你去, 我也去。咱们俩一起去吧。(あなたもいけば、私もいく。一緒に行こう)”という発話を“我去, 你也去。咱们俩一起去吧。(私もいけば、あなたもいく。一緒に行こう)”というふうに入れ替えても意味に変わりはない。しかし、例文(6)と例文(9)を比べれば明らかに事情が異なることが分かる。例文(9)で、話し手Aは「同窓会に行けない」と既に明言しているが、行けなくなった話し手Aの状況とは逆に話し手Bは行くという「譲歩関係」を表すために“也”が用いられている。“也”を意識すれば、「それにもかかわらず」ということになる。

以上、見てきたように、“也”の用法はさまざまである。たとえ同じ用法で使われているとしても、必ずしも同じ意味に解釈されるわけではない。このように、コミュニケーションは常にリスクを負って行われるものであり、言外の意味も状況に応じて千変万化する。とはいうものの、たとえ話し手が多義的な発話を発したとしても聞き手は話し手の意図している意味を復元できるものである。人が“～也～”という発話をする時は、前の節と後ろの節は“也”という記号で結びつけられるある種の関係があると示しているだけである。具体的にどういう関係かは発話時の状況において聞き手の持つコンテキストに照らし、語用論的知識などを動員し、推論を行うことによって分かるはずである。つまり、“也”は聞き手に向けた解釈の仕方についていわば案内にすぎない。ブレイクモアは、“也”のような単語が受けているのは「解釈手続きへの指針」という意味で「手続き的符号化(procedural encoding)」であると考えていると指摘している。

## 5. 終わりに

中国語の“也”の用法が日本語の「も」の使い方と一対一で対応していないことは明らかであるが、実際教育現場でも十分に注意を払う必要があると思う。日本人母語話者が中国語を学習する時、“也”の位置を間違えたり、違う意味に受け止めてしまったりするのも無理がないだろう。一方、中国人母語話者に日本語を教える時、「も」の持つ意味や使い方はそれほど難しいものではないが、ただ単に文中の言葉を順番通りに一つ一つ逐語訳で教えるのはどうしても問題があるように思える。具体的にどのような教え方が一番理想的であるかを考え、そのような教え方で本当に効果が得られるかどうか考察することは今後の課題として研究を重ねていきたいところである。

また、この“也”の使い方について、周りの中国語母語話者の間でもそれぞれ解釈が違う部分も見られたため、個人個人の中国人母語話者が果たしてどのように解釈していくかとても興味深いところがある。今後関連のアンケートを行い、どのような相違点が見られるか、さらに検証を行う必要があると思う。

## 注

- 1) “也”の副詞的機能として、二つの事物や事柄において状況・性質などの類似の性質を表現する時、張斌(2001)と陸俭真・馬真(1985)では“类同”とし、呂叔湘(1999)では“两事相同”とし、姜汇川・许皓光・刘延新・宋凤英(1989)と新华词典(1990)では“同样”としている。本稿では、「類似」とする。
- 2) “快……了”は文型で、動作や状況がまもなく起こることを表す。
- 3) 分かりやすく言えば、二つ(以上)の意味を持つ語がどの意味で使われたかを突き止めること。

## 参考文献

- つくば言語文化フォーラム 編(1995) 『「も」の言語学』 ひつじ書房
- 今井邦彦(2001) 『語用論への招待』 大修館書店
- 小泉保(2001) 『入門 語用論研究—理論と応用』 研究社
- Blakemore, D. (1992) Understanding Utterances. Blackwell:Oxford UK.  
(日本語訳:武内道子・山崎栄一(訳)(1994)『人は発話をどう理解するか—関連性理論入門』 ひつじ書房)
- G. Brown & yule (1983) 「談話分析における文脈について」
- 田窪行則 西山佑司 三藤博 亀山恵 片桐恭弘(1999) 『談話と文脈』 岩波書店
- 大東文化大学中国語大辞典編纂室・編(1994) 『中国語大辞典』(下) 角川書店
- 相原茂 荒川清秀 大川完三郎 主編(2004) 『東方中国語辞典』 東方書店
- 楊凱榮(2002) 『「も」と“也” —数量強調における相異を中心に—』 『対照言語学』 東京大学出版会
- 呂叔湘 主編 牛島徳次 監訳(1992) 『中国語用例辞典』 東方書店
- 香坂順一(1988) 『初心者も使える中国語虚詞辞典』 光生館
- 高橋弥守彦 姜林森 金満生 朱春躍(1995) 『中国語虚詞類義語用例辞典』 白帝社
- 張斌(2001) 『現代汉语虚詞词典』 商务印书馆
- 陸俭明 馬真(1985) 『現代汉语虚詞散論』 北京大学出版社
- 呂叔湘(1999) 『現代汉语八百詞』(増訂版) 商务印书馆
- 北京大学中文系 55 級 56 級语言班 編(1982) 『現代汉语虚詞例釋』 商务印书馆
- 曲阜师范大学本书编写組 編(1987) 『現代汉语常用虚詞词典』 浙江教育出版社
- 陈高春(1995) 『实用汉语语法大辞典』 中国劳动出版社
- 姜汇川 许皓光 刘延新 宋凤英(1989) 『現代汉语副詞分类实用词典』 对外贸易教育出版社
- (1990) 『新华词典』 修订版 商务印书馆